

## とくそう のぞ はたら く 特掃を望むのは、働いて暮らしたいから。

### しごと す いりょう そうごうてき たいさく ひつよう とくそうしゅうろうしゃちょうさ 仕事・住まい・医療の総合的な対策が必要。2010年1月特掃就労者調査

ずいぶん遅くなつてしまつたが、今年(ことし)1月(じつ)末(とく)に実施(とく)した特掃就労者調査(とく)の結果(けつ)をつたえたい。

調査(ちゆうさ)した時期(じき)は、すでに年末(ねんまつ)までに09年度(ねんど)の登録者(とうろくしゃ)2236人(うち)700人(ち)が、

生活保護(せいかつほご)を受けて卒業(そつぎょう)していつ

た後(あと)なので、回答数(かいとうすう)は07年(かいつうすう)に比べると少(すく)なくなつて

いる。年齢(ねんれい)についてみると、とくに、60歳(さい)未満(みまん)

の割合(わりあい)が07年(かいつうすう)の44%から25%へとおおき

く減(へ)り、ぎやくに65歳(さい)以上(じょう)は14%から

31%にふえて

いる。年齢(ねんれい)の中心層(ちゆうしんそう)は、

以前(いぜん)は55歳(さい)〜64歳(さい)だつたが、60歳(さい)〜64歳(さい)へ

と、高齡化(こうれいか)している。

いっぽう、寝場所(ねばしょ)については、シェルター(ねばしょ)の

割合(わりあい)がへつて、簡宿(かんしゆく)の割合(わりあい)がふえてい

る。これは07年(とく)の特掃回数(とく)が平均(へいきん)3.5

回(かい)だつたのが、09年度(ねんど)は5.3回(かい)に、その

結果(けつ)か、収入(しゅうにゆう)が約(やく)1万円(いちまんえん)ふえ、簡宿(かんしゆく)に泊(と)まれる割合(わりあい)が増(ふ)えたと考(かん)えられる。

年齢	2009年度調査		2007年度調査	
	度数	割合	度数	割合
60歳未満	201	25.0%	637	44.3%
60以上 65歳未満	354	44.1%	600	41.7%
65以上 70歳未満	186	23.2%	162	11.3%
70歳以上	62	7.7%	40	2.8%
有効回答数	803	100.0%	1439	100.0%

寝場所(ここ1ヶ月)	2009年度調査		2007年度調査		
	度数	割合	度数	割合	増減
シェルター	333	44.8%	750	52.7%	-8.0%
野宿(テント・小屋)	70	9.4%	148	10.4%	-1.0%
野宿(テント・小屋なし)	125	16.8%	214	15.0%	1.8%
簡易宿泊所	299	40.2%	470	33.1%	7.1%
飯場・寮	17	2.3%	27	1.9%	0.4%
自宅	118	15.9%	140	9.8%	6.0%
自宅(生活保護)	1	0.1%	-	-	-
施設(生活保護)	6	0.8%	-	-	-
自立支援センター	8	1.1%	8	0.6%	0.5%
生活ケアセンター(三徳寮)	41	5.5%	118	8.3%	-2.8%
その他	23	3.1%	9	0.6%	2.5%
有効回答数	744	100.0%	1422	100.0%	

つぎに、一ヶ月(いちかげつ)の収入(しゅうにゆう)についてみると、平均(へいきん)4.4万円(まんえん)と、前回の調査(ぜんかい) (07年)よりも1.2万円(いちにまんえん)増(ふ)えている。さらに、

月収(つきしゅう)入(にゆう)が五万円(ごまんえん)をこえると、毎日(まいにち)野宿(のじゆく)をしている人(ひと)の割合(わりあい)が著(いちじる)しく減少(げんじゆく)することがわかつた。

つまり、収入(しゅうにゆう)が一カ月に最低(さいてい)五万円(ごまんえん)をこえると、なんと

か寝泊まり(ねと)する費用(ひよう)にお金(おかね)をまわすことができるようにな

るといふことだ。そのためには、特掃(とくそう)だけが収入(しゅうにゆう)源(げん)という

人(ひと)が半数(はんすう)いるのだから、まず特掃(とくそう)で最低(さいてい)でも、月9回(つき9かい)は

就労(しゅうろう)できる必要(ひつよう)がある。

いまの生活を続けていく上での希望		
項目	度数	割合
輪番回数を増やしてほしい	386	58.0%
住居で暮らしたい	100	15.0%
建設日雇で働きたい	25	3.8%
アルミ缶の買取値段をあげてほしい	71	10.7%
常用雇用で働きたい	60	9.0%
その他	8	1.2%
とくにない	16	2.4%
有効回答数	666	100.0%

今後の予定		
項目	度数	割合
近々、生活保護を申請するつもり	57	7.4%
将来的には生活保護を申請するつもり	429	55.6%
いずれは就職して、自活したい	105	13.6%
このままの生活を続けていくつもり	180	23.3%
有効回答数	771	100.0%

生活保護をいまず申請しない理由		
項目	人数	割合
仕事で得た収入で生活したい	314	47.9%
年が若い	109	16.6%
親・兄弟に連絡がいく	136	20.7%
借金がある	34	5.2%
年金などの収入がある	73	11.1%
土地・家屋がある	5	0.8%
生活が制限される	147	22.4%
仕事で稼いだ分、保護費が減らされる	12	1.8%
ほかの入居者との関係がわずらわしい	46	7.0%
手続きが面倒	82	12.5%
その他	18	2.7%
有効回答数	656	100.0%

収入手段(ここ1ヶ月)		
項目	人数	割合
特別清掃	787	99.5%
廃品回収	162	20.5%
日雇	134	16.9%
パート・派遣など	23	2.9%
認定	4	0.5%
年金	78	9.9%
生活保護費	0	0.0%
その他	13	1.6%
有効回答数	791	100.0%

収入手段の組み合わせ									
特別清掃	廃品回収	日雇	パート・派遣など	認定	年金	生活保護費	その他	人数	割合
1	0	0	0	0	0	0	0	405	51.2%
1	1	0	0	0	0	0	0	146	18.5%
1	0	1	0	0	0	0	0	113	14.3%
1	0	0	0	0	1	0	0	70	8.8%

そのうえで、シェルターで寝泊まりしつづけていなくてもよいように居住支援策をつくっておくならば、生活保護だけにたよらなくても、シェルターや野宿からぬけだすことができるようになる。

1月末の調査の時点で、すぐには生活保護を申請するつもりがない就労者は、9割以上にのぼっていた。そのなかの半数は、申請しない理由として、「仕事で得た収入で生活したい」と答えている。

野宿やシェルターからぬけだすほ唯一の手段が、生活保護しかないから、生活保護に違和感や拒否感をもつ人は、野宿やシェルターにとりのこされてしまう。困窮状態にある人を生活保護で底支えする対策とともに、稼働年齢にある人が、生活保護を受けなくても、働くことで野宿しなくてもいい仕事・住まい・医療の総合的な対策が求められている。

特掃は、その柱として欠かせないし、もっと強めるべき対策である。七〇歳前後の人には、特掃に頼らなくてもよい対策を、せめて五〇歳以上の人には特掃を柱とした対策が必要だ。